

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 東日本大震災の支援に取り組んでいます

大津波の日からもう半月が経ちました。現地のあまりの悲惨さに、テレビの前で息を呑み、涙を流した日々。市民のみなさんも同じ思いで、テレビに釘付けだったのではないのでしょうか。

本市では、県などの要請で早速、消防 5 名、水道 4 名の職員を現地に派遣し、保健師 4 名を待機させました。消防・水道の職員は、遠く東北の被災地で活躍してくれ、元気に帰ってきました。すでに交代要員を出しています。その他、家を失った被災者の受入れに備え、市営住宅 13 戸を用意しました。入居される人にとって、住み心地の良い本市での生活になるように、市民のみなさんと一緒に、行政もできるだけの配慮に努めたいと考えます。

また、市役所のほかに、総合事務所、支所、公民館、市民館、文化会館、市民病院、水道局などに募金箱を置き、広く市民のみなさんに被災地に送る義援金を呼びかけています。日用品や衣類などの救援物資は、県の指導で市民への呼びかけを自粛していましたが、3月17日解禁になったことから、市の広報車を6台出して全市を6地区に分け、翌18日から21日まで市民のみなさんに支援の協力を呼びかけました。お陰さまでたくさんの救援物資が集まりました。ありがとうございました。

3月18日には、水道局から「^{しんきょうすい}森響水」を70ケース1,680本、病院局からタミフルを1,300錠、県や日赤県支部に届けています。

災害の規模の大きさを考えると、復興にはま

だまだ時間がかかると思いますが、市民のみなさんとともに、今後とも支援の努力は惜しまないつもりです。

■ 資源ごみの分別、ありがとうございます

毎月1日号の広報紙に載せていますが、資源ごみの売却収入も馬鹿にできません。平成22年度は、3月のひと月を残し、4月から2月までの累計が5,405万円になりました。みなさんのご協力のおかげです。ありがとうございます。ちなみに、指定ごみ袋の手数料収入も、同じ期間に1,548万円の収入がありました。資源ごみの分別については、引き続きよろしくお願い致します。

■ 山陽消防署建設の予算が否決されました

老朽化して耐震性にも問題のある現山陽消防署を、加藤交差点近くの国道316号沿いにある民有地を購入して新築する予定でしたが、市議会で実質的に否決されました。厚狭全域を視野に入れて、幹線道路沿いであれば予定地には固執しない旨を何度も担当委員会で説明したのですが、理解が得られませんでした。厚狭公民館を含む厚狭地区の老朽化した公共施設の新設計画に影響が出そうです。

対話の日

4月28日(木) 14:00 ~
鴨庄西自治会館